

農林水産省関東農政局長賞

「かみさまがこめられたイのちのネ」

平塚市立松が丘小学校

2年 大芦 海莉

「ほら！またごはんつぶのこしてるよ！」

わが家では、お茶わんに米つぶを一つでものこすとかならずおこられます。米つぶをのこすと目がつぶれる、米つぶ一つ一つにかみさまが入っているというりゆうでダメだと言われます。わたしはこのりゆうをしんじられなくて、どうせお母さんは自分が作ったごはんをのこしてほしくないから言っているんだと思っていました。

夏休みにおじいちゃんの家に行ったとき、わたしはいつものように米つぶをお茶わんにくつつけたままでごちそうさまをしようと思いました。そのとき、おじいちゃんにもお母さんに言われたこととおなじことを言われたのでびっくりしました。みんながおなじことを言うのでふしぎに思ってしまったら、お米は、アマテラスというかみさまが人げんにあたえてくれたたべものだということとがわかりました。米ということばは、かみさまがこめられたものコメだそうで、その米をみのらせるいねは、イのちのネ、つまりいのちのねっこであるということなんだそうです。このことをしって、お米はただのたべもの一つではなくて、人が生きるといふことそのものをあらわすものなんだなと思いました。

しらべてみて、わたしは今までかみさまや、いのちをそまつにしていたんだということに気がつきました。ぶたやうしだけではなく、米にもいのちがあるんだということ、いのちをたべさせてもらうから、たべる前はかならずいただきますなんだということをおぼえて学びました。

これからはお米をとぐときは一つぶ一つぶかみさまのからだをきれいにあらってあげるつもりでたいせつにとぐようにしたり、たべるときも心をこめていただきますをしてから、一つぶのこらずしっかりと自分のいのちにしていきたいと思いました。